

まちかど

アルバム



こい 鯉のぼりめがけてヨーイ、ドン！

福部保育園

4月30日(金)、福部保育園で毎年恒例の「子どもの日のつどい」が開催されました。大きな真鯉や、園児手作りの色とりどりのミニ鯉のぼりが園庭に揚げられると、運動会の始まり。保護者や先生が見守る中、玉入れや、鯉のぼりの中をくぐる障害物競走などが行われました。大好きなかげっこでは、ゴールテープ代わりにのび鯉に向かって、園児たちが大喜びで走っていきました。

ごぞうえん 五臓圓ビルに文化財登録プレート

二階町二丁目

今年1月に国の有形文化財として登録された二階町の五臓圓ビル。4月28日(水)、所有者の森下章さんと「五臓圓ビルを保存・活用する会」の常村護さんに、竹内市長から登録プレートと登録証が授与されました。同ビルは、昭和6年に建築された鉄筋コンクリート造3階建の建物で、鳥取大火などを乗り越えてきた歴史的建造物です。7月からは改修工事が行われ、智頭街道や中心市街地の交流拠点施設として生まれ変わる予定です。



無病息災願い、しめ縄奉納

河原町北村

4月28日(水)、県の天然記念物に指定されている落河内のカツラに、地元住民がしめ縄を取り付けました。この木は、地元で古くから「山の神様」として信仰されている高さ約40呎、幹回り約13呎、樹齢約500年の巨木です。当日は、早朝から北村老人クラブの有志28人が、3時間かけて長さ15呎、直径10呎の大しめ縄を作製。その後、車で現地へ運び、カツラの幹に巻き付けて1年の無病息災を願いました。

なかしままこと 中島諒人さんの功績を祝う

ごころ しかの心

「鳥の劇場」主宰の中島諒人さんが「芸術選奨文部科学大臣新人賞」を受賞したことを受け、4月17日(土)、鹿野町鹿野のカフェ兼ギャラリー「しかの心」で祝賀会が行われました。会場では、平成18年に鳥の劇場が活動を始めたときからのチラシなどが天井に飾られ、中島さんが出席者とともに懐かしんでいました。「この賞は、劇団員や地域のみなさまと一緒にもらったものです。これからも地域の方とともに歩んでいきたい」と語る中島さんに、会場からは惜しみない拍手が送られました。





砂丘のジオパークとしての魅力を紹介

鳥取砂丘ジオパークセンター

4月23日(金)、山陰海岸ジオパークの代表的な地質遺産である、鳥取砂丘の成り立ちや美しい自然を楽しみながら学べる「鳥取砂丘ジオパークセンター」が、砂丘市営駐車場内にオープンしました。この施設は、旧福部歴史資料館を改修・整備したもので、館内の大型ハイビジョンモニターにより、砂丘の美しい映像を視聴できるほか、ジオガイド2人が常駐して展示の解説や砂丘の実地案内を行います。

佐治でスローライフはいかが

たんぼり荘

日々忙しい生活に追われている人に朗報です。佐治町^{なか}中のたんぼり荘の一角に、体験観光用の「五右衛門風呂」が完成しました。現代の生活では体験できなくなった、まき割りや風呂たきができ、かいた汗をお風呂で流すことができます。豊かな大自然の中で、時間に追われないスローライフを体験してみたいかがでしょうか。



上手につかめるかな

とっとり出合いの森

4月25日(日)、森林公園とっとり出合いの森(桂見)で「第35回鳥取こどもまつり」が開催されました。晴天に恵まれたこの日は、親子連れら約6,200人が来場。木工工作やはしご車体験などを楽しみました。なかでも、鳥取環境大学 JAVA 研究部主催の「動かせ!ロボットアーム」のコーナーは盛況で、大勢の子どもたちが列を作って、複雑なロボットアームの操作に挑戦していました。

こい 鯉のぼりが泳ぐまち

用瀬町用瀬

ゴールデンウィーク中の5月1日(土)から5日(水)まで、用瀬町内を流れる瀬戸川^{せどがわ}の水面に鯉のぼりが設置されました。期間中はポカポカ陽気の行楽日和で、



気持ち良さそうに川の中を泳ぐ鯉のぼりを、立ち止まって興味深そうに眺める家族連れや撮影するカメラマン、なかには、川に入って水遊びをする子どもたちもあり、用瀬の新たな観光スポットとして定着したようです。

因幡一ノ宮の春祭り

うべ 宇倍神社



4月18日(日)、国府町^{みやのした}宮下の宇倍神社で「春の神幸祭^{みゆきさい}」が行われました。神輿^{みこし}担ぎが復活して4年目となる今年は、晴天に恵まれ大勢の見物客^{はっぴ}が見守る中、白い法被姿の担ぎ手たちが大きな掛け声とともに神社から大神輿^{はつこ}を担ぎ出し、地元小・中学生の子どもも神輿^{やっこ}や奴行列、武者行列などとともに町内を練り歩きました。なかでも、

重さ約2トンの大神輿が100段以上の石段を駆け下りる様は圧巻で、神輿のきらびやかさと担ぎ手の威勢の良さに見物客は圧倒されていました。